

タイの鉱物資源(8) タイ鉱業'94~'95

須藤 定久¹⁾

1. はじめに

急激な膨張を続けてきたタイの経済も、1995年の不動産バブルの崩壊により、先行きに暗雲がたなびき始めた。1997年の夏にいたり、財政赤字の拡大、パーツの下落、パーツの変動相場制への移行、インフレの進行と混乱が拡大し、タイへの国際的な金融支援の実施にまでいたった。この経済的混乱は、マレーシア、フィリピンなどの近隣諸国へも波及し、今後が推移が注目されている。

タイの鉱業の現況については、概ね1992年頃までの統計データを基に本シリーズの最初に概説した(須藤,1997a)。鉱業関係では、急成長する国内工業の原料確保のため、1996年秋から、ろう石などの一部工業原料鉱物の輸出が禁止されるなどの動きもあった。本報では、1992年から1995年までの統計データを基に、前報のデータを補足し、タイの鉱業や資源供給の見通しについて考えてみたい。

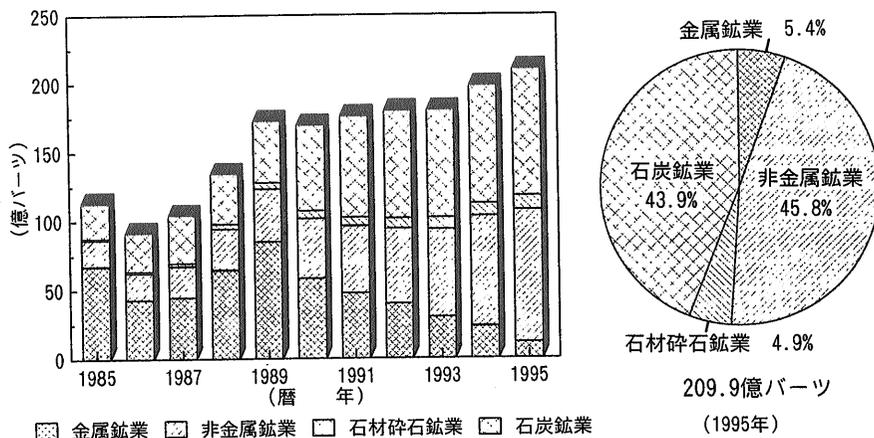
2. 鉱業活動の推移

全鉱業の生産高(第1図)は、1989年の180億パーツから着実な伸びを見せ、1995年には210億パーツとなった。金属鉱業は1991年の45億パーツから11億パーツへと急激な減少を見せた。一方、非金属鉱業、石炭鉱業、採石(石材・碎石)鉱業は順調な伸びを示した。とりわけ、非金属鉱業の伸びが大きく、石炭鉱業を追い越し、全体の46%を占めるにいたった。

A. 金属鉱業

急激な減少の原因は、最大の生産高を持つ亜鉛が1995年には1990年の1/4程までに、亜鉛に次ぐ錫(34.8%)が1990年の1/10程までに落ち込んだことによる(第2図)。

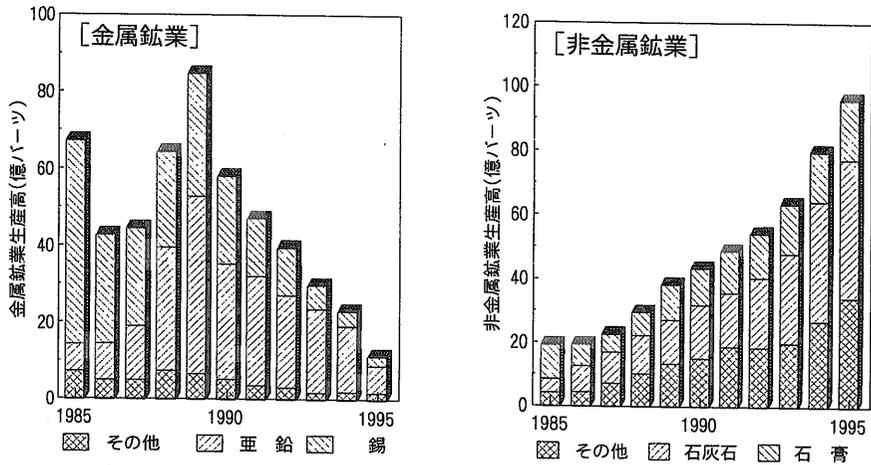
亜鉛：鉱量の確保が遅れているようで、大規模鉱床の発見がない限り、今後も漸減するものと考えられよう。



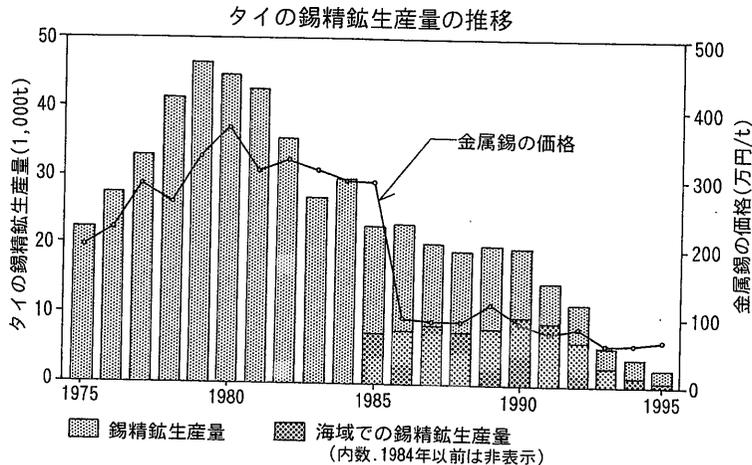
第1図 鉱業生産高の推移 (DMRの統計資料による)。

1) 地質調査所 資源エネルギー地質部

キーワード: タイ国, 鉱物資源, 鉱業活動, 工業原料鉱物



第2図 金属及び非金属鉱業生産高の推移(DMRの統計資料による)。



第3図 錫の生産と価格の推移(主にDMR, 鉱業便覧などの資料による)。錫の価格はマレーシアの市場価格を日本円に換算したもので、鉱業便覧によった。

錫：古くからタイを代表する鉱物資源であり、マレーシアやインドネシアとともに世界の主要産出国の1つであった。しかし、1985年10月の錫価格の暴落以来、錫の生産意欲は減退し、生産量は急激に減少した。かろうじて生産を維持してきた沿海鉱業公社(OMO:Offshore Mining Organization)の操業も1992年以降縮小され、1995年の精鉱生産量は2,200tとなり、タイの錫生産は壊滅状態となった。市況が回復すれば、中小鉱山による生産もある程度復活するであろう。

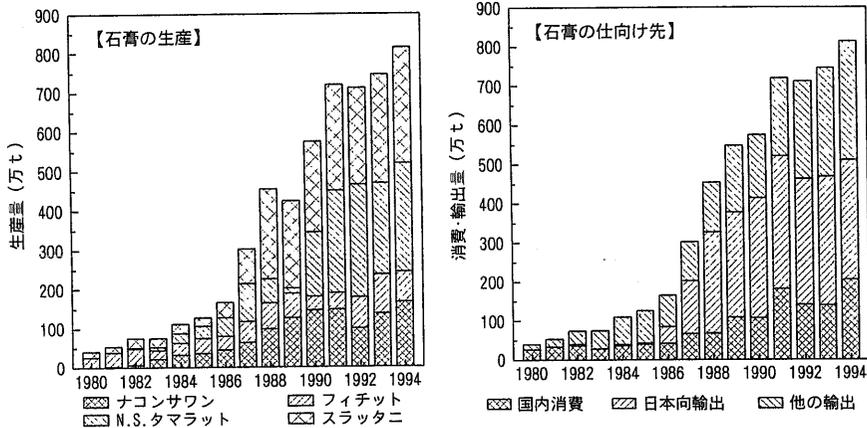
B. 非金属鉱業

非金属鉱業の鉱種別の生産高をみると、多い順

に石灰石(43.1億パーツ、45%)、石膏(34.5億パーツ、36%)、長石(5.6億パーツ、5.8%)、カオリン(5.1億パーツ、5.3%)、ドロマイト(2.3億パーツ、2.4%)、木節粘土(1.8%)、珪砂(1.2%)、岩塩(1.1%)などの順であり、各鉱種とも順調に伸びており、順位の大きな変化はない。

・石灰石：1990年の1,970万tから1995年の5,123万tへと約2.5倍に急増している。セメント生産の急激な伸びが生産量急増の原因である。埋蔵鉱量は十分あり、タイ経済の拡大とともに、石灰石の需要は今後も増加することが見込まれる。

石膏：タイの石膏は、1990年の575万tから1995年の853万tへと急増した(第4図)。日本への



第4図 石膏の生産量と仕向け先の推移(DMRの統計資料による)。N.S.タマラットはナコン・シ・タマラット県。

輸出も漸増しているが、タイの国内消費も石膏の最大の用途であるセメントの生産が順調に伸びているために急速に、さらに、近隣諸国への輸出も順調に増加している。今後なお一層の生産増加が予想され、埋蔵鉱量も当面不安はない。

長石：1991年の40万tから1995年には68万tへと増加した。このうちペグマタイト性カリ長石も年産2～3万t程度へ増産された。交代性長石(曹長石)はタク長石が安定した生産を続けているのに対し、南部のタサラ長石の生産が大幅に増加し、全体の60%以上を占めるにいたった(須藤,1997b)。

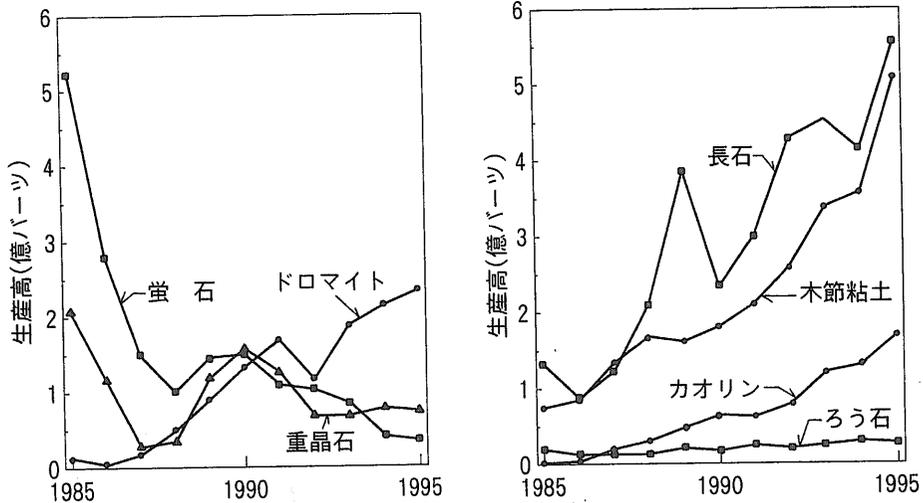
カオリン：北部の熱水性カオリン、南部の風化カオリンとも1994年に停滞があったものの、着実な伸びを示している。1991年の35万tから1994年には

53万tに達した。ランパン地区の生産量が約60%を占めている(第6図)。

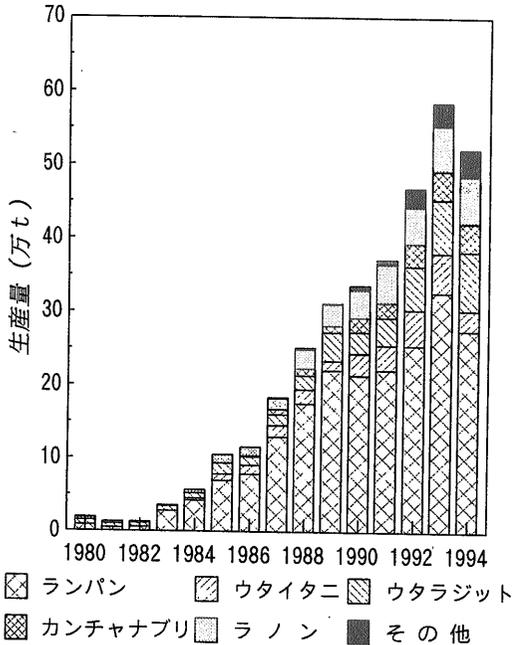
ドロマイト：1990年の38万tから1994年には61万tに達した(第7図)。日本への輸出も1992年の24万tから1994年には36万tに増加した。タイの国内消費も1994年には約15万tに達した。

木節粘土：1991年の18万tから1995年には31万tへとほぼ倍増した。このうち30万tはソップ・ラップを中心とするランパン県で生産されている。資源の長期的確保の観点からすれば、タイ北部の広域的な探査が期待される。

珪砂：1991年に66万tを記録したが、以後減少し、45万t程度となっている。40万tをラヨン県が産出、南部チュンフォン県の生産はなくなり、東部



第5図 主な非金属鉱物の生産高の推移(DMRの統計資料による)。



第6図 カオリンの生産量の推移 (DMRの統計資料による)。

チャンタブリ県では6万tに増産された。ラヨン県などでは環境保全・リゾート開発と競合しており、珪砂の生産は減少が予想される。

ホタル石：資源枯渇のため、生産量は1990年の9.5万tから1995年の2.4万tへと減少の一途をたっており、資源の供給地としては期待できない。

重晶石：主産地であった北部、中部の各県では生産が無くなり、南部のナコン・シ・タマラット県、トラン県の生産も減少、金属鉱物資源探査が活発

な北東部のローエイ県が主産地となった。生産量は1990年の13.9万tから1995年は5.9万tへと大幅に減少した。

3. おわりに

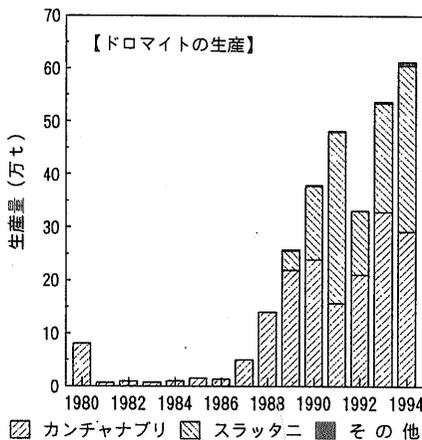
以上、タイ国の最近の鉱業活動と主要鉱産物の生産状況について概観した。東南アジア諸国の中で最も順調な経済発展を続けてきたタイにおける鉱業活動は、今後の東南アジアにおける鉱物資源の需給状況を占う上で重要な情報である。

また、1997年にいたりタイ経済は大きな挫折を味わうこととなった。今後、タイ経済がどのように立ち直ってゆくのか、そのなかでタイ鉱業がどのように動いて行くか注意し、逐次紹介して行きたい。

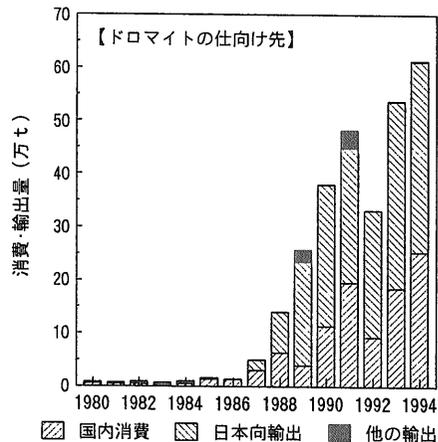
本報で使用した新しい統計データの入手に当たっては、地質調査所からバンコクのCCOP本部へ長期派遣されている木下泰正氏のご協力を頂いた。また、本報をもって、タイの鉱物資源のシリーズを終了しますが、この連載にあたっては、タイでの調査に同行された平野英雄氏から終始励ましをいただき、また原稿に目を通していただきました。ここに記して感謝の意を表します。

文 献

- D.M.R (1996) : Mineral statistics of Thailand 1990-1994. Department of Mineral Resources of Thailand, 77p.
- 中村勝隆 (1996) : 世界の鉱業の趨勢—タイ. 海外鉱業情報, Vol.26, No.4, p.39-46. 金属事業団
- 須藤定久 (1997a) : タイの鉱物資源 (1). タイ鉱業の概況. 地質ニュース, no.511, 48-55.



第7図 ドロマイトの生産量と仕向け先の推移 (DMRの統計資料による)。



須藤定久(1977b):タイの鉱物資源(5).タク地区の交代性長石鉱床.
地質ニュース, no.516, 62-69.

SUDO Sadahisa(1997): Mineral resources of Thailand
-8.Mining of Thailand '94 - '95

<受付:1997年6月26日>

[訂正とお詫び]

1997年9月号(no.517)に掲載の「タイの宝石…2大産地を訪ねて」の60頁,第1図の説明文中に「9.カンチャナブリ〜トラット」とあるのは「9.チャンタブリ〜トラット」の誤りです。訂正してお詫びします。誤りを指摘して下さいました読者の方にお礼申し上げます。

話題!

失われる熱帯雨林(2)

かつて、湿潤な熱帯雨林(ジャングル)が発達していたタイ南西部でも平野部では殆ど熱帯雨林を見ることはできない。ラノン市の東郊外には珍しく熱帯雨林が残されていた(写真A)。

開墾され、樹木をはぎ取られたところでは、大地が、保水力を失い、かつての潤いが想像もできない乾燥した世界となっている。雨期に雨が降ると、雨は大地を流れ下り、土壌を押し流し、たちま

ち乾燥してしまう。畑には乾燥に強いサトウキビ、パイナップル、コーヒー、胡椒などの作物が作られている(写真C, D参照)。

世界各地で森林破壊による環境悪化が懸念されている。しかし、現地の人々の生活向上のためには、森林の開発も必要なのであろう。畑の中に巨木の切り株が残されていた(写真B)。かつての森の主はなにを言いたいのであろうか?

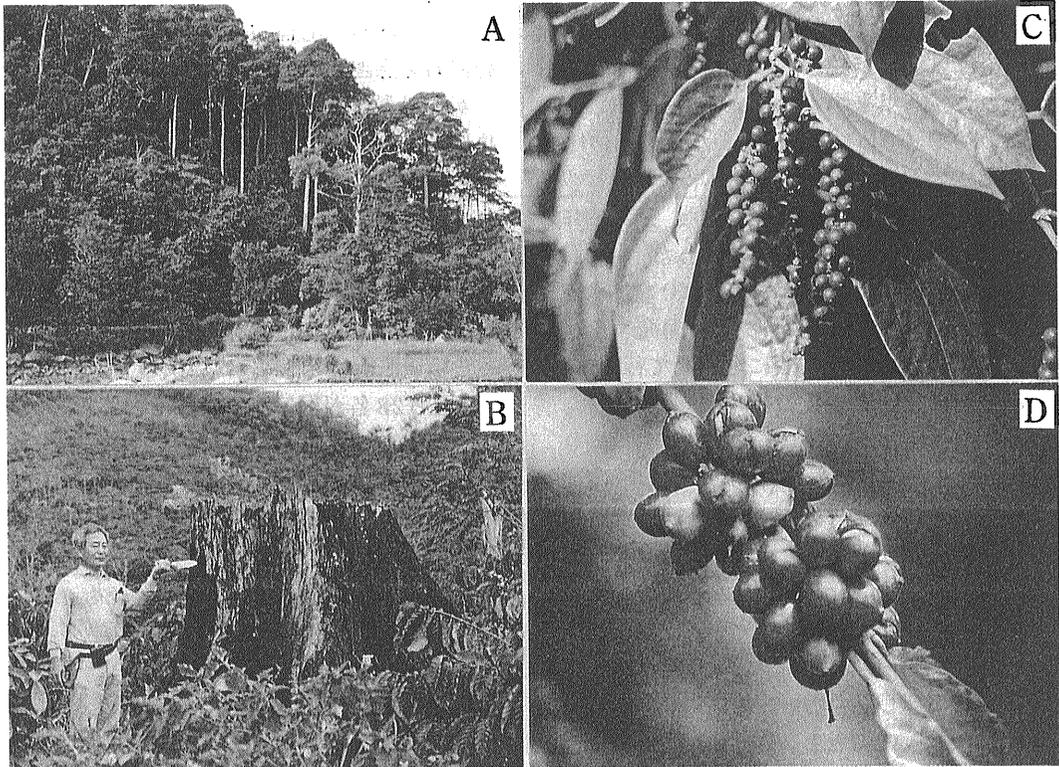


写真 A.平地近くにわずかに残された熱帯の森(ラノン市の近郊で), B.コーヒー畑の中に残された大木の切り株(チュンフォン市郊外で), C.胡椒は高さ2~3mの常緑つる性の樹木。葡萄のような実がつき、やがて真っ赤に熟す(タイ東部のラヨン市郊外で), D.真っ赤に熟したコーヒーの実。別の枝には真っ白な可憐な花が咲いていた(チュンフォン市郊外で)。